

## 1. 授業の概要(ねらい)

実験行動分析学(The Experimental Analysis of Behavior)は20世紀に誕生した新しい学問である。その創設者であるB. F. Skinnerは、アメリカ心理学会により「20世紀の卓越した心理学者」の第1位に選ばれた。実験行動分析学は、生物の行動そのものを研究の対象とし、それを決定する環境との因果関係を明らかにしようとする。このアプローチは、物体の《運動》にだけ注目して、その法則を明らかにした物理学と共通している。この授業ではEABの背景をなす科学哲学である徹底的行動主義(radical behaviorism)の特徴、EABの発展に大きく影響した研究テーマ、EABの応用である応用行動分析学(Applied Behavior Analysis: ABA)について紹介する。

## 2. 授業の到達目標

- ・EABの科学哲学的特徴ならびに歴史的背景について、自分なりの意見を述べるができる。
- ・ABAの初歩的な概念を説明できる。

## 3. 成績評価の方法および基準

学期末試験の成績のみで成績を決める。試験は、あらゆる資料の持ち込みを認め、論述式問題で実施する。

## 4. 教科書・参考文献

教科書

テキストは使用しない。

参考文献

小野浩一(2016)『行動の基礎(改訂版)』培風館

眞邊一近(2019)『ポテンシャル学習心理学』サイエンス社

佐藤方哉(1976)『行動理論への招待』大修館書店

ジェームズ・E. メイザー(2008)『メイザーの学習と行動(日本語版第3版)』二瓶社

ミルテンバーガーR.G. 園山繁樹・野呂文行・渡部匡隆・大石幸二(訳)(2006)『行動変容法入門』二瓶社

佐藤方哉(編)(1983)『現代基礎心理学6 学習II その展開』東京大学出版会

小川隆(監修)(1989)『行動心理ハンドブック』培風館

## 5. 準備学修の内容

毎回の講義で取り上げる話題について、基本的専門用語の定義は予習して理解した上で授業に臨むこと。毎回の講義の後、ノートを整理し、参考文献を参照して講義内容への理解を深めること。

## 6. その他履修上の注意事項

『学習心理学I・II』を履修済か、同時並行して履修していることが望ましい。

## 7. 授業内容

- 【第1回】 授業方針の説明,参考書籍の紹介
- 【第2回】 EABの特徴(1):実験と制御
- 【第3回】 EABの特徴(2):意識の扱い
- 【第4回】 心理学の歴史とEAB:Wundt,Watson,Skinner
- 【第5回】 EABに影響を与えた思想:ダーウィニズム,操作主義,論理実証主義
- 【第6回】 強化随伴性と強化スケジュールの復習
- 【第7回】 オペラント・レスポナント交互作用(1)
- 【第8回】 オペラント・レスポナント交互作用(2)
- 【第9回】 スケジュール・パフォーマンスの制御変数:VIとVR(1)
- 【第10回】 スケジュール・パフォーマンスの制御変数:VIとVR(2)
- 【第11回】 ABA
- 【第12回】 Small-Nデザイン
- 【第13回】 行動観察記録法(1)
- 【第14回】 行動観察記録法(2)
- 【第15回】 まとめ